

「新しい交通システムを踏まえたリニア時代の二次交通の在り方」 に関する検討状況とその公表に向けた今後の取り組みについて

1 主旨

- (1) 昨今の交通モビリティを取り巻く環境の変化等を踏まえると、リニアの整備効果を地域振興に活かす上では、「新しい交通システムを踏まえたリニア時代の二次交通」について様々な面から検討し、その在り方の提示していくことが最も重要である。
- (2) それゆえ、この「新しい交通システムを踏まえたリニア時代の二次交通の在り方」についてメインに考察することとし、その上でそこから派生する「新しい交通システムによる既存駅との活用」という視点から、「リニア駅とJR飯田線との接続方法」について検討を行う。

2 令和3年度における業務について

- (1) 留意していること
 - ① 「JR飯田線の利活用」だけではなく、リニア時代の「二次交通の在り方」も見据えた俯瞰的な観点からの検討を行うため、「二次交通の在り方調査検討業務」として発注。
 - ② 「新しい交通システム」については、技術的・法整備的な面からの現状と今後の方向性も踏まえつつ、リニア駅を拠点とした移動（＝リニア時代の二次交通の在り方）に関する現段階の想定を元に、その活用の可能性と効果等について考察する。
- (2) 具体的な取り組みと内容
 - ① まずは、本市及び南信州地域の各拠点を整理しつつ、当該拠点間の現在の移動の実態を把握
 - ② その上で、リニア駅から主要な拠点までの間のルート（二次交通）を仮置き（仮説設定）
 - ③ 当該仮説を元に、現時点及び将来的に考えられる交通モード（モビリティ）の導入可能性や適性を考慮に入れながら、経済や観光等の地域振興への寄与について検討する。
 - ④ 最終的に、当該業務の成果として、リニア時代を見据えた上で、現時点で適切と思われる「新しい交通システムを踏まえたリニア時代の二次交通の在り方」を提示する。
 - ⑤ なお、議会側から検討の意見をいただいている「リニア駅とJR飯田線との接続方法」については、上記④の結果から導く。
- (3) 進捗状況
 - ① 当該「新しい交通システムを踏まえたリニア時代の二次交通の在り方」については総合的な観点からの検討が必要であるが、その整理に時間を要しており、現段階では纏め切れていない。
 - ② 加えて、業務内容を踏まえた精査・検証・分析にも、当初想定していたよりも時間をかける必要性が生じてきている。

3 今後の取り組み（公表に向けて）

- (1) 「新しい交通システムを踏まえたリニア時代の二次交通の在り方」については、リニア駅周辺整備にも密接に関連することから、両者を関連づけて説明することにより、市民の理解増進や意識高揚につなげていく必要がある。
- (2) ついては、リニア駅周辺整備の「市民向けの説明の場」と合わせて当業務の報告を行うことを目指す。